

平成26年度 全国学力・学習状況調査

教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立表郷中学校長

平成26年4月22日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は3年生で、国語と数学の2教科について主に知識に関する「A問題」と、主に知識を活用する力に関する「B問題」を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、生徒の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部であるとともに、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語A	79.4%		○			
国語B	51.0%			○		
数学A	67.4%	○				
数学B	59.8%	○				

【国語A:本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと	72.3%			○		
書くこと	83.4%	○				
読むこと	82.9%					○
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.7%	○				

【考察】

- 「話すこと・聞くこと」に関する問題では、話し合いの中で互いの発言を検討したり、話し合いの役割について理解することについて課題があります。授業において、話し合いの役割を意識させ、互いの意見を交流し、その妥当性について検討する場を設定します。
- 「書くこと」に関する問題では、書くために必要な材料を集めたり、文章を推敲したりすることについて課題があります。授業において、作文や新聞等を作成する際に必要な情報を選択させることで、判断力を養い、互いの作品を批評し合い、再度自分の作品について振り返らせる時間を確保します。
- 「読むこと」に関する問題では、登場人物の言動を根拠として心情を読み取ったり、段落相互の働きについて意識させ、文章構成を考えさせたりしていることが効果を上げているため、今後も続けていきます。
- 「言語についての知識・理解・技能」に関する問題では、文脈に即した言葉の使い方や辞書の活用、また、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すことに課題があります。授業において辞書を活用したり、文脈に沿って言葉の意味を読み取らせていきます。仮名遣いについては、古典の学習時だけでなく、継続して確認する時間を設けていきます。

【国語B:本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
話すこと・聞くこと		該当設問なし				
書くこと	41.0%					○
読むこと	49.2%			○		
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	56.8%		○			

【考察】

- 「書くこと」では、授業のまとめで学習課題に対する自分の考えを書き、まとめを行う活動を毎時間取り入れていることが効果を上げているため、今後も続けていきます。
- 「読むこと」では、韻文(短歌や俳句)や和歌、標語に使われている表現技法の効果に気付き、根拠を明確にして自分の考えをまとめたり、資料を読み比べ、それらの資料の要点をとらえたりすることに課題があります。授業において、表現技法の効果、工夫について基礎の定着を図らせ、さらにそれらを自分の表現に生かす場面を作っていきます。
また、新聞や同じ作家による作品の比べ読みを行うことで比較し、情報を読み取る力を身につかせていきます。
- 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、登場人物の言動から心情を読み取ることに課題があります。授業の中で古語の意味を文脈から予測させ、理解を深める場面を設けていきます。

【数学A:本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	77.4%	○				
図形	66.4%	○				
関数	58.0%	○				
資料の活用	59.1%	○				

【考察】

- 「数と式」の領域では、累乗の指数を含む正負の数の計算や数量の大小関係を不等式に表す力が不十分です。授業の中で既習事項の確認の時間を意図的に設け、定着を図ります。
- 「図形」の領域では、図形の辺の長さや角の関係を読み取る力やn角形の内角の和を求める公式の意味の理解が不足しています。図形の模型を使って関係を確認させる活動や公式の活用の問題演習を意図的に取り入れていきます。
- 「関数」の領域では、与えられた式から2つの数量関係を読み解く力や反比例の式をグラフと表を関連づけて考える力が不十分です。比例と反比例の式とグラフ、表の関係を確認し、問題の中で活用する演習の時間を確保します。
- 「資料の活用」の分野では、度数分布や相対度数、ヒストグラムの意味の理解が不足しているため、用語の意味の確認や問題演習などを通して振り返りの時間を確保します。

【数学B:本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と式	56.9%	○				
図形	58.6%	○				
関数	64.4%		○			
資料の活用	55.9%	○				

【考察】

- 「数と式」の領域では、説明の筋道を読み取り、式を適切に変形する力と、事柄が成り立たない理由を説明する力に落ち込みがみられます。グループでの話し合い活動や表現活動をより重視した授業を展開していきます。
- 「図形」の領域では、与えられた図から情報を得て、空間の中の位置関係を読み取る力に落ち込みがみられます。授業の中で空間図形を平面で表す活動を取り入れ、空間認識を高めていきます。
- 「関数」の領域では、与えられたグラフの読み取りや、グラフの特徴から問題解決の方法を説明する力が不足しています。グラフの見方や特徴のとらえ方を考えさせ、話し合いの場をもつことで表現力を養います。
- 「資料活用」の領域では、樹形図を利用することで情報を整理したり、判断の理由を説明する力が十分に身につけていません。資料を読解し、根拠をもとにして自分の考えを述べる場面を意図的に設定し、資料を活用する力を高めていきます。